

# 「来日当初泣きながら稽古」

## 鳴戸親方講演に100人

華厳寺月例

### まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」(読売新聞社後援)が20日、奈良市の薬師寺で開かれた。大相撲の鳴戸親方(元大関琴欧洲)が講演し、約100人が聴

き入った。

19歳でブルガリアから来日した鳴戸親方は現役時代、2財超の長身を生かした豪快な取り口で活躍。2005年に欧州出身者初の

大関昇進を果たした。来日当初は角界の文化や食べ物になじめず、泣きながら稽古したと苦労を明か

し、「思い出したくないほどしんどかった。一日でも早く関取になると決意し、必死に続けたことが財産になった」と振り返った。

続いて「人の育て方」をテーマに大谷徹(ていしち)執事長と対談。引退後の17年に鳴戸部屋を開いた親方は「人間として成長しなければ相撲も強くなれない」と弟子を育てる心構えを語り、「高い目標を持ち、逆計算して積み重ねることが結果につながる」と力を込めた。

講演は9月中旬にまほろば塾ホームページで配信される(有料、まほろば塾推進の会会員は無料)。次回は9月17日、作家の荒俣宏さんが講演する。



講演で相撲人生を振り返る鳴戸親方(奈良市で)